

けやき倶楽部歴史グループ分科会 7 月度活動報告

日 時	2021 年 7 月 20 日 (火) 10 : 30~12:00
場 所	オンライン分科会
参加者 氏	9 名
次回予 定	<p>1. 会員発表 テキスト羽田正『東インド会社とアジアの海』講談社学術文庫 (1.) Tki「第二章 東インド会社の誕生の要約」病欠により Yk 会員発表</p> <p>①東インド会社の設立 オランダが東インドへ赴く理由として、交易による収益に加え、私掠船による価格高騰、販売拠点をめぐる争い、王室と契約を結んでいる商人などもあげられる。</p> <p>②東インド会社のインド洋海域への進出 ポルトガル人がアジアの海に表れてから一世紀、文字と書籍、地図の形で蓄積され、ヨーロッパ人はあらかじめ一定の準備をしたうえで赴けた。</p> <p>③蘭・英東インド会社の仕組み 蘭：本社なく、支部のカーメルのみ。経営方針は取締役から選ばれた 17 人会で決定。 英：英本国に本社、株主総会で選ばれた 24 人の取締役が会社の運営の責任を負った。 質疑：「アジアにおける陸の帝国」の表現おかしい⇒東アジアは対照的とある 質疑：オランダの収益は何に投資されたのか⇒イギリスに投資されたので産業革命か</p> <p>(2) Tkd「新興国オランダ」 十七世紀前半、葡・西・英と東インド香料貿易の覇権を競い、これを制した。その核となったのが東インド会社である。その後ジャワ土着君主の王位継承戦争に暗躍して版図を広げ、コーヒー等の栽培により栄華の時代を築き上げた。しかしつかの間、やがて衰退へと向かい、植民地は残るが東インド会社は消滅する。 結局、大量に交換可能な商品を生産できた国を中心とした経済圏が世界経済の中核となっており、そのような国々と交易する必要があることがわかる。 質疑：農業用の土地も、工業用のエネルギーも・人口も少ない⇒商業しかない</p> <p>2. 今後の予定一次回オンライン分科会 開催日時：2021 年 9 月 21 日 (火) 10:30 -12:00 テーマ：第三章 「東アジア海域の秩序と日本」 Sky 会員、Yk 会員の資料だけでは不足するので 追加資料大歓迎</p>

